

第13回三大学連携事業「ウェルビーイング スポーツ文化と健“幸”」

- ・日時：2016年7月2日（土）13:00～16:10
- ・場所：関西大学千里山キャンパス 新関西大学会館北棟 1階ホール

三大学連携事業とは：

大阪市立大学、大阪府立大学、関西大学は、同じ大阪都市圏に立地する大学として、包括連携協定を平成20年11月6日に締結しました。この協定に基づき、毎年公開講座を共同開催しており、今回のシンポジウムもその一環として行われました。

第13回となった三大学連携事業は、「ウェルビーイング スポーツ文化と健“幸”」をテーマに、オリンピック・パラリンピックや、大阪マラソン、障がい者スポーツなど、様々な角度からスポーツ、運動、健康について考えるシンポジウムとなりました。一般・学生含め110名の参加があり、参加者アンケートからは「これ程まで面白いスポーツのお話を聞いたのは初めてだった。スポーツの奥深さを感じることができた。」といった感想をいただくことができ、改めてスポーツとは何か？を考える機会となりました。

■ 基調講演

今、スポーツ文化の構築が始まるー体育からスポーツへー （スポーツ評論家）玉木 正之氏

■ ポスターセッション

■ パネルディスカッション

- ・パネリスト
 - スポーツ評論家 玉木 正之氏
 - 大阪市立大学都市健康・スポーツ研究センター副所長 渡辺 一志
 - 大阪府立大学学長補佐／地域保健学域長 奥田 邦晴
- ・司会 兼 パネリスト 関西大学人間健康学部教授／学生センター副所長 杉本 厚夫

基調講演にスポーツ評論家の玉木正之氏をお迎えし、オリンピックやアスリートのお話をまじえながら、スポーツ文化について今現場で起きていることを幅広くお話しいたきました。



▲ 基調講演の様子



◀ ポスターセッションの様子

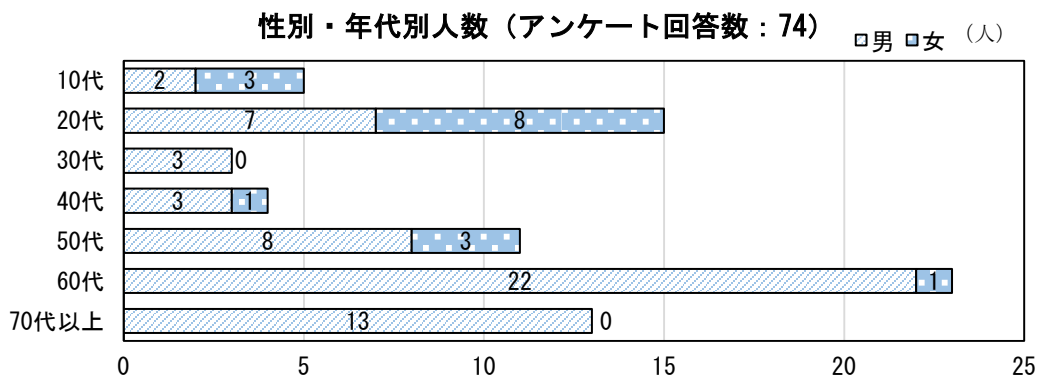
三大学の教員や学生が、健康・スポーツに関する研究内容や地域での活動を発表し、交流しました。



◀ パネルディスカッションの様子

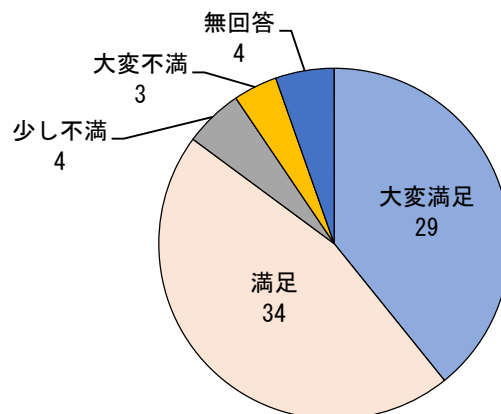
杉本教授（関西大学）の進行のもと、奥田学長補佐（大阪府立大学）からは重度障がい者アスリートが参加できるスポーツ“ボッチャ”について、渡辺教授（本学）からは競技スポーツの高度化と、健康スポーツとしての大衆化・高齢化について報告がされました。締めくくりには登壇者全員による「スポーツ文化と健“幸”」の定義について、ディスカッションが行われました。

<参加者内訳>



<満足度>

テーマ「スポーツ文化と健幸」について



<受講者からの感想(抜粋)>

- ・スポーツというテーマについて深く考えたことがなかったが、定義など奥が深いものであり、面白く感じた。
- ・リオ五輪で盛り上がっている時期でタイムリーなテーマで特に興味深かった。まだまだ歴史の浅いと思っていたスポーツの根源や奥深さを知れ、大変勉強させていただいた。
- ・応援する人、支える人、スポーツを行う選手等の様々な視点で話が聞けて大変興味深かった。様々な関わり方があり、感動や生きがいを感じられるスポーツはやはり良いものだ実感した。